

病理専門研修プログラム

信頼され、求められる病理医と一緒に目指そう！

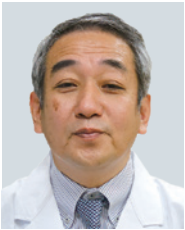
募集定員
2名

研修期間
3年



責任者からのメッセージ

病理診断科科長
病理学講座腫瘍形態病態学分野
教授 佐藤 勇一郎



宮崎大学附属病院病理診断科では、全科・全領域にわたり、病理診断をしています。指導医とマンツーマンで、マクロ・ミクロの病理標本を

みながら、基礎的な標本の見方から希少症例や難しい症例の診断まで経験することができます。病理解剖も執刀医として行い、全身臓器の病理所見、さらに患者様の全体像をとらえる重要なトレーニングがつめます。宮崎県内の連携施設、病理医との関係が強く、連携施設での研修も可能です。学会活動や研究も積極的に行っており、日本病理学会や九州沖縄支部スライドカンファレンスにも参加、発表、論文発表も行っています。宮崎大学で、一緒に病理医としてのトレーニングをつんでみませんか。

プログラムの特徴

- ① 全領域にわたる豊富な症例を指導医とともに経験できる。
- ② 各診療科とのカンファレンスがおこなえる。
- ③ 執刀医として病理解剖を行い、全身臓器に精通できる。
- ④ 宮崎県内全ての病理医から指導が可能で、連携施設での研修も可能。
- ⑤ 病理学会、九州・沖縄支部スライドカンファレンスにも積極的に参加、発表、論文作成も行える。

取得可能な専門医資格および技能

病理専門医：病理解剖、病理診断、細胞診断を迅速かつ正確に行える。

解剖資格医：解剖を安全かつ正確に行う技能を身につける。

細胞診専門医：細胞診断を正確に行い、細胞検査士を指導できる。

分子病理専門医：分子病理に精通し、病理検体の管理・提供、遺伝子解析が行える。

連携施設名等

	施設名	指導医	
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	佐藤 勇一郎 病理診断科長、他6名	
連携施設1群	県立宮崎病院、防衛医科大学校病院、公益財団法人 がん研究会有明病院、宮崎市郡医師会病院		
連携施設2群	県立延岡病院、県立日南病院、潤和会記念病院、宮崎善仁会病院		
連携施設3群	古賀総合病院、地域医療機能推進機構 宮崎江南病院、都城市郡医師会病院、国立病院機構 都城医療センター		

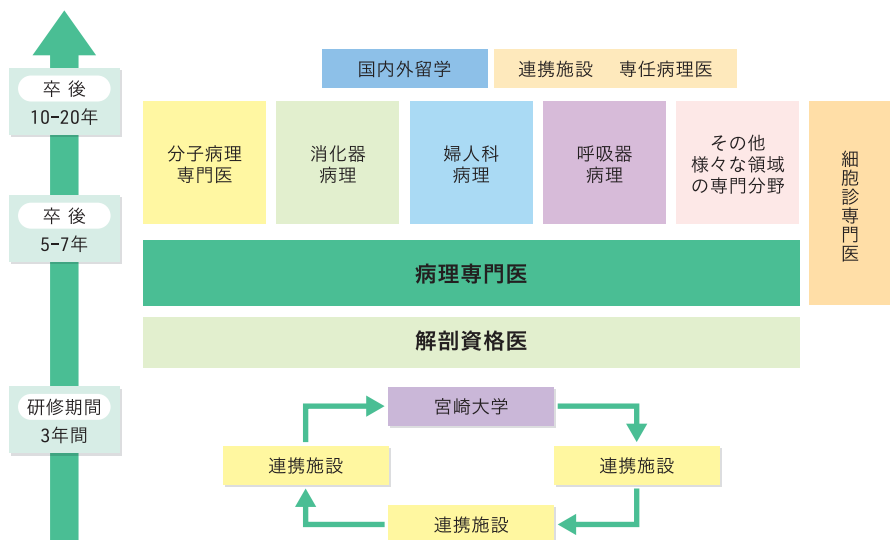
連携施設1群・・・複数の常勤病理専門指導医と豊富な症例を有しており、専攻医が所属し十分な教育を行える施設

連携施設2群・・・常勤病理専門指導医がおり、診断の指導が行える施設

連携施設3群・・・病理指導医が常勤していないが、基幹病院から定期的に指導医が派遣されている施設

専門医取得までのタイムスケジュール

本プログラムでは、宮崎大学医学部附属病院を基幹施設とし、3年間は専門研修連携施設をローテートして病理専門医資格の取得を目指します。連携施設と併せて年間10～15例程の剖検数があり、組織診断も25,000件程度あるため、病理専門医受験に必要な症例数は余裕を持って経験することが可能です。研修終了後1年間は基幹施設または連携施設において引き続き診療に携わり、研修中に不足している内容を習得します。宮崎大学に在籍する場合には研究や教育業務にも参加していただけます。専門医資格取得後も引き続き基幹施設または連携施設において診療を続け、サブスペシャリティ領域の確立や研究の発展、あるいは指導者としての経験を積んでいただきます。本人の希望によっては留学(国内外)や連携施設の専任病理医となることも可能です。



プログラム達成目標

病理学の総論的知識と各種疾患に対する病理学的理解を身につけ、医療における病理診断(剖検、手術標本、生検、細胞診)を的確に行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保するとともに患者を正しい治療へと導けることを目標とする。生検、術中病理診断、手術材料の診断においては、診断が比較的容易で症例数の多いものからはじめ、希少症例、難解症例では鑑別診断をあげられるようにする。剖検では、執刀から臨床病理検討会(CPC)および報告書作成まで行い、全身臓器に精通し、症例をまとめる能力を身につける。

日課タイムスケジュール

時間	病理診断当番	解剖当番
AM	生検・手術検体診断	病理解剖
PM	指導医による診断内容チェック	追加検査提出、症例まとめ記載
	手術材料 切出	

週間スケジュール(宮崎大学医学部附属病院の例)

月	火	水	木	金
切出し・術中・診断	切出し・術中・診断	切出し・術中・診断	診 断	切出し・術中・診断
婦人科カンファ (月1)	骨髄カンファレンス	腎生検カンファレンス (随時)		胎盤肉眼観察
呼吸器カンファ (隔週)	泌尿器カンファレンス (隔週)			
外科病理抄読会 (隔週)				

指導医からのメッセージ



盛口 清香

皆さんが思う病理医って、どんな感じでしょうか？ 華やかさはありません。患者さんに、ありがとうと言われることも、ほとんどありません。地味と言えば地味です。でも、私が顕微鏡をみて下した診断が、患者さんの治療に繋がると思うと、気が抜けない、重要な仕事だと誇りに思っています。そんなお仕事、一緒にやってみませんか？

先輩からのメッセージ



都築 諒

病理診断科で専門医研修4年目の都築です。学生時代はあまり病理に興味がなく、漠然とムズカシイものという印象でした。研修医の時に病理をローテーションした際に、診断病理を経験することで、病理の魅力に引き込まれました。ただ組織所見を見つけるだけでは無く、なぜそのような組織像になったのか、考えることは非常に面白いです。また上級医とのディカッションでまた新たな解釈を学ぶことができ、成長が実感できます。噛めば噛むほど味が出てきます。他にも病理医の魅力があり、ベッドフリーなので時間の融通が効きます。仕事とプライベートを両立したく、顕微鏡で見ることにアレルギーがない方は向いていると思います。病理医も選択肢として如何でしょうか？



梅北 佳子

もともと臨床医志望でした。学生時代の病理学の授業や試験は記憶にないです。私にとって病理とは、そのくらい縁遠い世界でした。研修医時代、同期が病理を選択していたので、つられて私も選択してみました。それが運命の出会いでした。意外に自分に合っていることに気が付き、入局、今に至ります。病理診断の楽しさを短い文章でお伝えするのは難しいです。少しでもご興味があれば、まずは一カ月、病理診断科で研修してみましよう！

お問い合わせ先

担当：佐藤 勇一郎

T E L : 0985-85-2809
F A X : 0985-85-2809
e-mail : yuichiro_sato@med.miyazaki-u.ac.jp

病理 HP

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/pathology/>

